

# 日本保育学会 第70回大会

メイン会場：川崎医療福祉大学

# あらゆる子どもに保育を

乳幼児の健やかな成長のための教育・保育を考える「日本保育学会 第70回大会」(同学会第70回大会実行委員会主催)が5月20、21の両日、川崎医療福祉大(倉敷市)をメイン会場に開かれた。今回のテーマは「あらゆる子どもに保育を」。今年は教育要領・保育指針の根本的な

改訂が告示された。歴史的な保育の転換点を迎えた中、多くの教育・福祉の先駆者を輩出してきた岡上で、全国の研究者、専門職ら延べ約8000人が幼児教育と保育の歴史を振り返るとともに、これからの「幼保」の連携の在り方などについて議論を深めた。

第70回大会実行委員長  
橋本勇人氏

川崎医療福祉大学  
子ども医療福祉学科



講演

## 発達障がい児の保育

一障害児・者福祉の思想と動向一

障害児・者福祉は1981年の国際障害者年を契機に転換した。それまで障害児・者は施設入所が中心だったが、ノーマライゼーションの理念が導入され、施



社会福祉法人  
旭川理事長  
末光 茂氏

## 保育者は地域連携の中核に

設入所から在宅・地域支援へと施策が変更された。さらに2014年に批准された障害者権利条約により、障害者の社会参加を目指す「ノーマライゼーション」を進め、援助を充実するインクルーシブの考え方が、注目されている。

発達障害も、04年に成立した発達障害者支援法で大きく変わった。かつて自閉症児は多くても0.04%程度とみられていたが、今では学習障害、ADHDなど

の発達障害児は6%程度と認識されている。もはや例外的ではなく、身近な存在だ。そのため障害児と家族を守り支える制度は充実され地域の専門機関・システムも整備されている。療育施設と保育園との連携、保護者への教育、現場の人材育成などのほか、保健・教育・労働・福祉・医療の連携を担う発達障害者支援センターも各地に開設された。

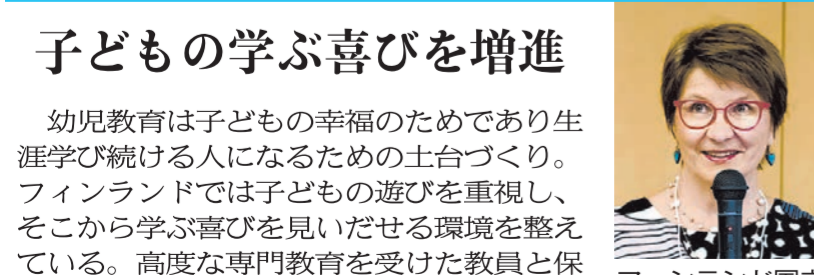
## 地域特別企画シンポジウム 地方と世界を結び子ども・子育て

▶岡山県内の首長、有識者ら4人が世界で活躍できる子どもを育てるには何が必要かを意見交換。「日本各地の文化や多様性を大切にすることが子どもの視野を広げる」「芸術などで豊かな感性を磨けば創造性が生まれる」などとした。倉敷市、総社市の子育て支援施策の紹介もあった。



## 国際講演 フィンランドの乳幼児ケアと教育

子どもの学ぶ喜びを増進  
幼児教育は子どもの幸福のためであり生涯学び続ける人になるための土台づくり。フィンランドでは子どもの遊びを重視し、そこから学ぶ喜びを見いだせる環境を整えている。高度な専門教育を受けた教員と保護者が協力し子ども一人一人の関心や発達に合わせた個別カリキュラムを作成する。



主催/一般社団法人日本保育学会 第70回大会実行委員会 (中国・四国ブロック)

実行委員会企画シンポジウム

## 保育と医療

### 小児科医師の立場から



東京家政大学  
子ども支援学科  
岩田 力氏

私は小児科医の立場として2005年に東京家政大学に赴任し、現在は2014年新設の子ども学部子ども支援学科に所属している。小児科医がなぜ教職にと思われるかもしれないが、小児科医と保

育者には相関性があり、保育者の育成に大きな意味があると考えている。「子ども(成長)と発達、そしてwell-beingを保証する使命を負った存在であり、かつ子どものために発言(代弁)する存在である」。学術書「ネルソン小児科学」にある、小児科医を表現する一文は保育者にもおおむね当てはまる。

今後は川崎医療福祉大学をはじめ先進校にも学び、健常児はもちろん、支援を必要とする子どもにも適切な教育支援を行う保育者をより良い形で育成できるように、さらに取り組みを進める。

### 医療知識持つ保育者を育成

育者には相関性があり、保育者の育成に大きな意味があると考えている。「子ども(成長)と発達、そしてwell-beingを保証する使命を負った存在であり、かつ子どものために発言(代弁)する存在である」。学術書「ネルソン小児科学」にある、小児科医を表現する一文は保育者にもおおむね当てはまる。

今後は川崎医療福祉大学をはじめ先進校にも学び、健常児はもちろん、支援を必要とする子どもにも適切な教育支援を行う保育者をより良い形で育成できるように、さらに取り組みを進める。

## 日本保育学会70周年記念シンポジウム 日本保育学会70年の歩みとこれから

▼日本保育学会の歴史について紹介した後、同学会第68代会長がバネルディスカッションを行った。学会の将来展望について小川博久氏は「理論と実践は不可分、研究者はフィールドワークを重視しつつ保育現場の課題に答えたい」と述べ、研究者はフィールドワークを重視しつつ保育現場の課題に答えたいと述べた。沙見稔幸氏は「脳生理学や音声学、美学などさまざまな分野の専門家との協力を推進していきたい」と強調。秋田喜代美氏は「子どもの視点を大切にし、子ども、保護者、保育者それぞれが幸せを創出する保育学を目指す。若い保育者が希望を持って取り組める環境を整える必要がある」と述べた。



(写真左から) 日本保育学会第6代会長 小川博久氏 (東京学芸大学) 第7代会長 秋田喜代美氏 (東京大学大学院) 第8代会長(現会長) 沙見稔幸氏 (白梅学園大学)

共催/学校法人 川崎学園

### 小児医療に関わる保育士養成



川崎医療福祉大学  
子ども医療福祉学科  
入江慶太氏

子どもにとって入院生活は大変不自由で、医師が注射をすると言えれば拒否できないし、手術やリハビリの日程にも口を出せない。ただし病院に勤める保育士と一緒に何を遊ばせようか、子どもが主体

的に選ぶことができる。チーム医療に関わる保育士に求められるのは、厳し入院生活の中で、子どもに快適な環境を提供すること。また保育のねらいや実際の教育内容を医師ら他業種の専門家に説明し、子どもの健全な発達を促すことだ。

小児医療に関わる保育は子どもの命を輝かせる仕事だ。私たちの教育の良い点を伸ばし、課題をクリアしながら、より熱意と誇りを持った人材を社会に送り出していきたい。

### 病棟実習で学生が大きく成長

は学生を大きく成長させてくれると感じている。一方で具体的に何を実習で教えるのかの基準づくりが進んでいないなど課題も分かってきた。小児医療における保育士の役割の大切さを社会に広く周知していくことも必要だろう。

小児医療に関わる保育は子どもの命を輝かせる仕事だ。私たちの教育の良い点を伸ばし、課題をクリアしながら、より熱意と誇りを持った人材を社会に送り出していきたい。

基調講演

## 幼児教育と特別支援教育の狭間で考える



元国立特別支援教育  
総合研究所理事長  
小田 豊氏

まず特別支援教育の現状をみると、義務教育段階の児童生徒数は減少傾向にもかかわらず、障害のある児童生徒は増加しており、特別支援学校、小・中学校の特別支援学級のほか、通常の学級に在籍しながら個別の指導を受けている。

三つめにインテグレート(統合)教育からインクルーシブ(包括)教育への転換がある。インクルーシブ教育で大事なことは私たちの責務だ。

の、一人一人が違うことを認め合う教育の平等と、本人が学びの場を選択する権利。以前は原則として視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の五つの障害が比較的重い子どもたちは特別支援学校で学ぶとされてきたが、13年の制度改革で、本人と保護者の意見を最大限尊重し、学びの場を選択できるように柔軟な見直しが行われた。

## 実行委員会企画シンポジウム 日本の保育内容の歴史と展望

一幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の歩みとこれから一

## 保育を小学校へ上手につなぐ



中教審幼児教育部会  
主査  
無藤 隆氏

▼2015年度から「子ども・子育て支援新制度」が実施され、乳幼児教育の質の向上が求められる中、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂が今年3月に告示された。

沙見稔幸氏は0-1歳児の保育の狙いや内容の記述が充実したことを評価。保育には養護が行き届いた環境が必要で、小学校以降の学力の土台となる「非認知能力(忍耐力や社会性など)」を十分に育てることが大切だと認められたことも、これからの保育に大きな意味があるとした。

企画・制作/山陽新聞社広告本部

後援/岡山県 岡山県教育委員会 岡山市 岡山市教育委員会 倉敷市 倉敷市教育委員会 岡山県保育協議会 岡山市 岡山市教育委員会 総社市 総社市教育委員会 岡山県私立幼稚園連盟